

## 49. 被服材料よりみた工作に関する研究

——布地別による衿の裁ち方—— (第2報)

各方向による布の伸びと衿の裁ち方との関係

昭和女子大 ○刑部 昭子  
堀津富久子

1. 織物は各方向により伸び加減が一樣でなく織り方によっても異なる。これは種々の因子にもとづくが、この布の伸びを利用して従来の方法でおこなわれている衿の裁ち方について検討を加え、裁ち方の違いによる衿の安定性を究明する。

2. 肩下り寸法は Arm hole と相関関係にあると考えられたので腕付根回りを計測して、Waist Arm hole について検討を加え、次に Rolling Collar に形をきめ、I 表衿は後中心線を経布に定め、I 裏衿の後中心線を経布、II 裏衿の後中心線を緯布、III 裏衿の後中心線を斜布、II 表衿と裏衿の布目を同一にした場合、の各方向による布の伸びと Rolling Collar Blouse を製作し着用実験して適当と思われる裁ち方を検討した。

3. 前回設定した肩下り寸法で Arm hole のゆるみ分量が機能的に差し支えない事が明らかになった。

更に方向により伸び加減が異なるから同一条件で製作した衿でも、衿腰の分量が頸推点と Neck base line における Neck point より 5 cm 前部の点では差異があり、又肩縫目の方向により衿の安定性が異なる事が明らかになった。